



がんば

島原市立第三小学校
育友会報
発行
広報部

【第112号】



特集・噴火に負けない三小の子ども達

さあー二学期だ

心で作ろう 珊瑚小(三五小)

さあー二学期だ。

色とりどりのヘルメット姿の子どもが続々と登校してくる。

やっと日焼けの顔にもとった。

交通指導のおトさんに

「おはようございます」

元気いいあいさつをとばす。

クーラーのある教室、

水まきされた運動場が

子どもたちを待っている。

さあー二学期だ。

全国からとどけられる温かい心あたたかに

心でこたえる二学期だ。

明るい心、すなおな心、感謝の心、がまんがまんの心、

不屈の心……

心のアンテナをとぎすまず二学期だ。

災害時の子どもたち

校長 橋本 徹也

八月一日から学校にまた元気な顔が並び、声が聞こえるようになった。どの顔も、夏休み終えの黒黒とした顔ではない。都会っぽい顔のようだ。いつもと違う夏休みだったことを物語っている。

子ども達を丈夫に育てよう!! 早くプールで泳げるようにしよう!! という意気込みから、教師と高学年の児童が一体となって働き、プール使用ができるようになった。

今、プールは三五小(珊瑚礁)子らの元気な声で満ちている。日焼けした顔も多くなったようだ。学校では、九月後半まで水泳指導を計画している。

運動場の火山灰は、土埃つちぼこりとなって教師と子ども達を悩ませている。少しでも埃をはずめて、気持ちいい中で体育や遊びができるようにと若手教師の早朝水まき奉仕が続いている。その場しのぎの応急で根本解決にはならないが、子どもを思う教師の熱意が伝わってうれしい。

どの教室や廊下も埃でいっぱい。微細ゴミというのだろう。掃除し

ても効果があまり見えない。どうせ入ってくるのだからと心が鈍感になってくる。そのうちに、だんだん慣れてきて、よごれが気にさ

わらなくなる。心のアンテナがさびてくるのがこわい。「環境が人を作る」という。心のアンテナが光っている子どもに育てたい。

島原市へ災害見舞が相次いでいる。子ども達が、その礼状を書いている。子どもへの礼状がまた届いたりして善意の連鎖反応が生じている。「うちの孫が久美子というの……島原の久美子さんが何だかよその人ではないような気がして



やっと、泳げたね

……」と書いてあったり、自分の災害体験や学童疎開とダブらせてお便りを下さったりで、生きた道徳教材ができそうである。人の心の「優しさ」、「温かさ」を知り、「ありがたみの心」、「他人を思いやる心」などをしみじみと感じさせたり、今(災害時)だからできる心の教育を特に強調したい。

不安をはねのけて

副会長

平野 義信

昨年十一月十七日、突如として噴煙を上げた雲仙普賢岳は、その後活発となり、五月以後降灰による土石流、初めて見聞きする溶岩ドームによる火砕流と立て続けに襲い掛かり、人的・物的・経済的に大きな被害をもたらしました。

更に、生活面においても、多くの方々が全国でも初めての警戒区域設定のため、避難生活を余儀なくされています。

そんな中で、子ども達の学校生活にも大きな影響を与え、休校、夏休みの繰り上げ実施と不安定な毎日が続き、三小でも仮転校、本校の児童が続出し、一時期は児童全体数の三割近くが減ったと聞

いていました。

例年と違った夏休みを過ごした子ども達も、八月一日より授業が始まり登校してはいますが、五小との並行しての同時授業となり、一時は子ども間の心の心配もありましたが、案ずるのは親ばかりで、先生方のご指導もあり問題も起きていないようです。

そこで、育友会でも一時的に中断している活動を再開してはどうかという声もあり、先般の代議員会において、こんな状況にあることができることから実施して行くことになり、いくつかの部では具体的に活動の方針が出されていたようでした。

育友会の皆様も不安な毎日をごさされておられると思いますが、子ども達も貴重な体験をしながら学校生活を頑張っています。私達も、子どもにハッパを掛けられないよう元氣を出して行くにはありませんか。

また、この先、五小の父母や子ども達と接する機会も多くなるうかと思いますが、私達もいつ同じ立場になるかも知れません。自分の子も含め、思いやりを持って接することができればと考えています。今日この頃です。育友会活動へのご協力よろしくお願ひします。

早くおさまって

三小六年
江崎 多恵子

皆様方にたくさんの御見舞など
いただいで大変うれしく思います
ついこの前まで緑がたくさんあつ
たのに、木も家もみんな灰色にな
ってしまいました。いつになったら
ら緑色の島原市にもどるのでしょ
うか。わき水も「灰が混っている
んじゃないかな……。」と思うと、
前みたいにくたくさん飲めません。
いつになったら火山活動がおさま
るのでしょう。
灰を吸ってたおれた人、ぜんそ
く、じんましんがひどくなった人
もいます。早く緑がいつばいの美
しい島原市にもどってほしいと心
から思っています。



給食はおいしいなあ……



あさがおの種とり（少ないね）

がんばる三五小（珊瑚礁）の子どもたち



クーラーのある教室で学習する三小の子



仮設校舎で元気に学習する五小の子

仮設住宅での生活

五小六年
橋川 久美子

私は現在、仮設住宅で生活を
しています。入居してまだ一か月余
りしかたっていません。近くにも
あまり友達がいません。少しさび
しいです。でも、家族全員がそろ
って生活できるということがとて
も嬉しいです。ふかふかのふとん



児童数の推移			
月	4月	6月	9月2日
第3小学校	723名	529名	653名
第5小学校	782名	296名	501名

↑
いちばん少ない時

にねれて安心しました。やっと落
ち着いた……という感じですが。
私にとって、家があって、家族
がいるということだけで何も言う
ことはありません。市役所のみな
さま、そしていろいろな品物を送
ってくださった方々、本当にあり
がとうございました。



降灰に 対する注意

養護教諭

庄崎 東子

火山活動が活発になり、火砕流、溶岩塊の崩落が頻発し、市内全体ほこりっぽくなっています。降灰やほこりなど、ひどい時の心がけとして、

- 一、常時マスクを携帯し、呼吸器を保護しましょう。気管の弱い人や小さい子どもは、喘息のような症状をおこすことがあります。
- 二、目をこすらない。角膜など傷つけ充血したりします。きれいな水で目を洗い、目薬をさしておきましょう。
- 三、外から帰ったら必ずうがい、目洗いをしましょう。
- 四、降灰がひどい時は、なるべく外出しない。外出するときは、帽子、メガネ、マスク、長袖を着用したり傘をさしたりしましょう。
- 五、灰はできるだけ家の中に入れないように、ほこりをはたいてから家に入りましょう。顔や手などについた灰は、きれいに洗い流します。

六、咳やたん、目のかゆみや充血、皮ふのかゆみやぶつぶつなど症状がひどい時は、専門の医師に相談して下さい。

年中「師走」

教務主任

園田 敏之

八時のチャイムと同時に学校が動き出す。

朝の職員室は、特別教室のかぎを取りに来る子、健康調査表を取りに来る子等であわただしい。先生方も印刷、運動場の水まき、子どもへの連絡と走り出す。

休み時間は、「おなか痛い」、「ころんでけがした」、「○○君がけんかしている」と訴える子の相

手、プリントの印刷とてんでこま。本当に学校は騒々しくて、落ち着いて授業の研究・準備をする時間はない。

やっと学校に静寂さが戻ると、会議の連続で息つく暇もないほどである。帰宅する時の先生方のカバンの中は、テスト類、教科書でいっぱい。帰宅してからが明日の授業との勝負である。

「師走」とは、十二月のことではなく一年中だと思ふ。

しかし、子どものいない学校はさびしいもので、手持ちぶさたとなり、忙しい日常がなつかしくなってくる。

やはり、教師は「忙しい」と言いながら、師走のごとく走り回っているのが一番幸せな時かもしれない。



1,100人の大家族をまかなう給食室

土俵の改修工事

十年前、育友会の努力で新築された土俵に白蟻がつき、あわや倒壊の危機にありました。四本柱ともはり近くまで喰われており、台風時には心配でした。

この度、市の方で解体し改修することになり、八月十九日・二十日の二日をかけて終了し、倉庫に格納してあります。災害がおちつき次第復元し、子どもたちの心身の鍛練の場にもどります。



編集後記

朝夕に、赤とんぼが飛んでいるのを見かけます。季節はすっかり秋になっていのですね。普賢岳が噴火して九ヶ月余り、いつになったら鎮まるのかわからない中で、八月一日より平常授業が始まり、子ども達も一生懸命勉強しています。一・二号では、学校でがんばっている子ども達の様子を特集号でお届けします。(広報部一同)